

第1回、第2回大学地域連携強化プラン懇話会 配布資料

草津版アーバンデザインセンター（UDC）
設立の必要性について

1

平成27年9月16日

草津市総合政策部草津未来研究所

全体の流れ

南草津のマクロな課題

課題解決のための調査研究

課題解決に向けての取り組み

草津版アーバンデザインセンターの必要性

南草津のマクロな課題



- 「第5次草津市総合計画基本構想」では、草津駅と南草津駅を「双眼の核」として位置づけている。
- 草津駅前には旧市街地であるため、社会インフラ等の蓄積があるが、南草津駅前には新市街地のため、社会インフラ等が不足している。
- 草津駅と南草津駅は新草津川で地理的に分断されている。
- 南草津には大学が立地する。



南草津の具体的な課題を調査

全体の流れ

南草津のマクロな課題

課題解決のための調査研究

課題解決に向けての取り組み

草津版アーバンデザインセンターの必要性

本事業に関連する調査研究実績一覧

- ▶ 平成24年度「南草津のまちづくりに関する調査研究報告書
-南草津地域のまちづくりの方向性について- 」
- ▶ 平成26年度「大学と地域の連携に関する調査研究報告書
-大学のある都市としての優位性を活かすために- 」

調査研究による南草津のS W O T分析 (1)

	強み (Strength)	弱み (Weakness)
内部の環境	<p>(1) 20歳代、30歳代の来住や住宅購買力のある働き盛りの人の多さ</p> <p>(2) ドラッグストア、コンビニ等、生活の利便性がある店・施設の増加</p> <p>(3) 駅を中心とした都市インフラ整備、公共交通の発達</p> <p>(4) 立命館大学の人的、知的、組織的な資源活用可能性の高さ</p> <p>(5) 昼間人口が多い</p> <p>(6) 子どもの数が多い</p> <p>(7) 駅の乗降者数が多い</p> <p>(8) 京阪神に近い</p> <p>(9) 工場が多い</p>	<p>(1) 生活の場、居場所、憩いの場として魅力の未成熟（遊び場等）</p> <p>(2) 居住者層とまちのつながり・コミュニティの不足（町内会、檀家等）</p> <p>(3) 駅前としての公共の場の不足、街路樹の少なさ</p> <p>(4) 「交流人口」を呼び込む魅力の不足</p> <p>(5) 文化的、学問的、知的な要素の不足（専門書店等）</p> <p>(6) 飲食店、ヘアーサロン等、商業機能の偏り、連携の弱さ、一体性の不足</p> <p>(7) ワンルームマンションの空室化</p> <p>(8) 人の集まるイベントが少ない</p> <p>(9) 回遊性がない。</p>

調査研究による南草津のS W O T分析 (2)

	機会 (Opportunity)	脅威 (Threat)
外部の環境	<ul style="list-style-type: none"> (1) 新快速停車による通勤・通学圏の一層の広がり (2) 広域道路アクセス及び広幅道路整備によるアクセスの容易性 (3) 駅周辺の開発の活発化と人口増 (4) びわこ文化公園都市ビジョンの具体化 (5) 文化拠点としての可能性（クリアホール等） (6) 防災・減災を意識したまちづくりの源流 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 本格的な高齢社会への準備の遅れ (2) グローバル化による草津市製造業の拠点性の不確実さ (3) 郊外型の大規模小売店の立地 (4) サステナブル度（とくに社会安定度）評価の低さ (5) 18歳人口減少による立命館B K Cの将来性の不明確さ (6) 類似した性格を持つ湖南地域の都市の発展 (7) 市内の新駅設置の可能性 (8) J R草津駅周辺を中心市街地活性化計画の検討 (9) リニア新幹線の開通

平成26年度「大学と地域の連携に関する調査研究報告書」の提案

- ①大学地域連携拠点(機能)の設置(行政)
- ②学生相談窓口の開設(行政)
- ③社会実験推進事業の実施(行政・大学)
- ④大学との共同研究の強化(行政・大学)
- ⑤大学の研究成果などを発表できる場の提供(行政・大学)
- ⑥人材育成プログラムなどの充実(大学・行政・市民)
- ⑦地域ラウンドテーブルの構築(企業・大学・行政)
- ⑧学生主導型体験プロジェクトの実施(大学・学生・地域・市民)
- ⑨まちづくり協議会などとの連携強化(大学・地域・NPO・中間支援団体)
- ⑩大学のさらなるキャンパス開放(大学・市民)

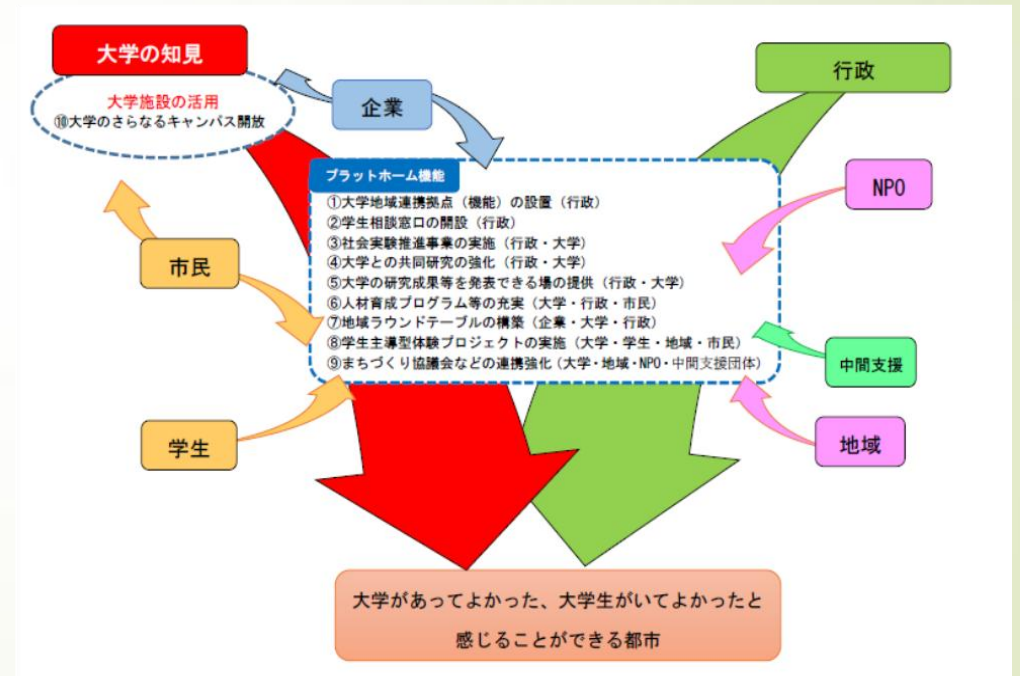


図4-2 大学と地域の連携にかかる具体的提案の展開図

調査研究における視察先一覧

- ▶ 平成24年度「南草津のまちづくりに関する調査研究報告書
-南草津地域のまちづくりの方向性について-」
 - ▶ 開かれたまちづくりの場：**柏の葉アーバンデザインセンター**（千葉県柏市）
 - ▶ 住む人が老いることを考えたまち：ユーカリが丘（千葉県佐倉市）
- ▶ 平成26年度「大学と地域の連携に関する調査研究報告書
-大学のある都市としての優位性を活かすために-」
 - ▶ 相模原市立市民・大学交流センター
 - ▶ **柏の葉アーバンデザインセンター**
 - ▶ 金沢市学生のまち・金沢の推進
 - ▶ 学生タウンなごやの推進

調査研究の結果について

- ▶ 平成24年度「南草津のまちづくりに関する調査研究報告書
-南草津地域のまちづくりの方向性について-」
 - ▶ 長期的な視点で見れば、立命館大学びわこ・くさつキャンパスを有する等の南草津の強みを最大限に生かしながら、そのような人たち*がゆるやかにまちづくりにかかわれるような仕組みづくりも必要である。そして、その仕組みのなかで、**気軽に自由に議論や話ができる空間が演出され、常に新しい出会いが創造されること**で、一人でも多くの人々が南草津に関心をもっていただければと願う次第である。（*大企業社員や大学生など数年単位でしか居住しない住民）
- ▶ 平成26年度「大学と地域の連携に関する調査研究報告書
-大学のある都市としての優位性を活かすために-」
 - ▶ 地域をベースに**市民と行政、企業、大学等が連携してまちづくりを進めていくための「場所」、「環境」である連携拠点（機能）**が必要となる。

連携空間・機能の必要性

全体の流れ

南草津のマクロな課題

課題解決のための調査研究

課題解決に向けての取り組み

草津版アーバンデザインセンターの必要性

未来創造セミナーの開催

- 過去の調査研究の提言を踏まえ、「気軽に自由に議論や話ができる空間が演出され、常に新しい出会いが創造」される場、及び「地域をベースに市民と行政、企業、大学等が連携してまちづくりを進めていくための「場所」、「環境」である連携拠点（機能）」を検討するため、南草津駅前の市民交流プラザにて「未来創造セミナー」を開催する。
- 今年度はテーマ、手法を変え、6回実施予定。
- 連携する部課としてのメリット
 - 未来研究所主催にすることにより、担当課の職員も市民として対話できる仕掛け
 - 担当者が市民と直接対話することにより、間接的に政策に反映
 - 和やかな雰囲気の中で異なる立場の他者の意見を聞くことによる新たな気づき
 - 従来の審議会やアンケート調査では読み取れない課題を肌で感じる機会
- 基本的な流れ
 - 市政についてのアンケート結果等をわかりやすく説明するだけでなく、アンケートで見えなかったことを参加者に問いかけ
 - 大学の先生から、問いかけを考える上での基礎的知識やヒントを提供
 - ワークショップで解決策を話し合う。
 - 参加者全員で個々の経験を共有

未来創造セミナー開催実績及び予定

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回
テーマ	理想とする女性の働き方	子育てしやすいまち	アーバン デザイン	まち づくり	スポーツ 芸術	大学地域 連携
庁内連携部署	男女共同参画室	子ども・子育て推進室	都市 計画課	まちづくり 協働課	スポーツ 振興課等	未来研究所
専門家	二宮周平 (立命館大学) 京樂真帆子 (滋賀県立大学)	小沢道紀 (立命館大学)	武田史朗 (立命館大学)	未定	未定	肥塚浩 (立命館大学)
開催日時	平成27年7月30日 14:00～16:30	平成27年8月25日 14:00～16:30	平成27年 11月5日 18:00～20:00	平成27年 11月予定	平成28年 1月予定	平成28年 2月予定
場所	市民交流プラザ（南草津駅前）					

参加者属性

(1) 属性別参加状況

属性	人数		
	合計	1	2
市民	36	15	21
学生	0	0	0
企業	2	2	0
大学	2	1	1
職員	16	6	10
合計	56	24	32

- * 学生の参加がないのは、1回目は試験中、2回目は夏季休暇中のため。
- * 企業については就業時間中であること、テーマに関心が無かったことが影響。
- * 大学は1回目は立命館大学職員、2回目は京都橘大学職員

(2) 性別参加状況

性別	人数		
	合計	1	2
男	9	4	5
女	47	20	27
その他	0	0	0
合計	56	24	32

* テーマ的は職員が中心。

(3) 年代別参加状況

年代	人数		
	合計	1	2
10代	0	0	0
20代	1	1	0
30代	5	4	1
40代	11	3	8
50代	6	5	1
60代	1	0	1
不明	32	11	21
合計	56	24	32

アンケート集計結果

合計	第1回
	第2回

問い	非常に有意義		有意義		まあまあ		物足りない		非常に物足りない		合計	
	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回
1. 運営等全般	8	5	17	8	5	2	0	0	1	0	31	15
		3	9	3		0		1		16		
2. セミナーの内容	7	4	22	10	2	1	0	0	0	0	31	15
		3	12	1		0		0		16		

* セミナーの運営等全般、及びセミナーの内容については高評価

* 職員を除いた参加者数 第1回 18名、第2回 22名

時間が短い

問い	大いに活かせる		いづらか活かせる		ほとんど活かさない		(わからない)		合計	
	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回
3. 今後の活動	9	3	18	9	1	1	3	2	28	15
		6	9	0		1		16		

* 「(わからない)」は選択肢がなく、コメントより抜粋。

セミナー参加者の主な意見

- 気軽に話せる雰囲気だったので話しやすかったです。話が盛り上がってワクワクしました。次につながるというなあと思います。
- こうやって行政の方、大学の方、市民がざくばらんに話せる機会がもてていることがそもそも素晴らしい。
- 問題意識を持たないで来ましたが、色々と考える機会になりました。こういう所から未来創造というものがあるのかなと思いました。
- 実際、市役所ではこういう風にしていきますとか直接職員の方と話せたり、立場の違う方と話せて良かったです。

セミナー参加者アンケートからの課題

- いつも同じ顔ふれになりがちなので、ぜひ話したいのにこのような場所を知らない人、知っているけれど一歩踏み出せないでいる人、楽しそうに議論している様子を見てテーマに関心を持つかも知れない人など**いろんな人が気軽に参加できるように**考えてほしい。
- 私のいたテーブルは当たり(?)だったようで、とても楽しい有意義な時間を過ごせましたが、お友達のいたテーブルは、終始雑談で何だかなあ...。と思ったようです。同じセミナーにせっかく参加したのだから、**できるだけみんなが楽しくすごせた方が良かった**のになあ...。と思います。(私は、よくセミナーに行くけど、友達は初めてです。) 初めて来た人にこそ、楽しいやん。また来てもいいな。と思ってもらった方がよいのでは? 様子みて、席かえとか、あっても良かったのかな? と思いましたが、どうでしょう。初参加の人に、雑談では、次来ないよ。(原文ママ)
- 今日出た内容は子育て(世代間についてはこれまであまり聞かなかったかも)に関する話し合いで何度か聞いたが、**今後反映されて実行していけるか疑問**。具体的に、市民が困っていることをくみ上げ、何をいつまでに 達成するか、市民全体に示せるような制度が必要ではないか(原文ママ)
- 活かせるかどうかわかりませんが、**活かせて欲しい**と思う。

未来創造セミナーで明らかになった 連携拠点設立に向けた課題

■ 多様性

- テーマ等によって参加者が一定の層に偏在する可能性あり、次の層が参加しやすい環境づくりが必要
 - 伝えたい情報や知りたい情報があるにもかかわらず、参加の障壁が高い層
 - 問題を知らないゆえに無関心なままの層
 - 直接関係がないが、間接的に関係する問題に取り組む層
 - 地域で活躍の場を求めている幅広い知識や経験を持つ学生、社会人、リタイア層

■ 専門性

- ファシリテータ等場の運営のノウハウを持つ人材
- 様々な分野の専門知識を持つ人々の参加による状況的学習機会を提供
 - 専門的な知識を持つ学識者や企業関係者、行政職員、NPO等の参加

■ 実行性

- 問題解決に向けて実際に活動する取り組みへの支援が必要

連携拠点づくりのまとめ

- 市の単独事業による連携拠点の限界
 - 市が課題をあげ、都度地元の大学の専門家を招き、ワークショップを開催
 - その後は所管課が継続を判断

常に開かれた
専門家が常駐する

市が決めるのではなく、
市民が提起した
テーマについて

気軽に自由に議論や話ができる空間
常に新しい出会いが創造
市民と行政、企業、大学等が連携

→ 色々な人が参加

連携拠点の仕組みとして
アーバンデザインセンターが有効

組織として
の参画

全体の流れ

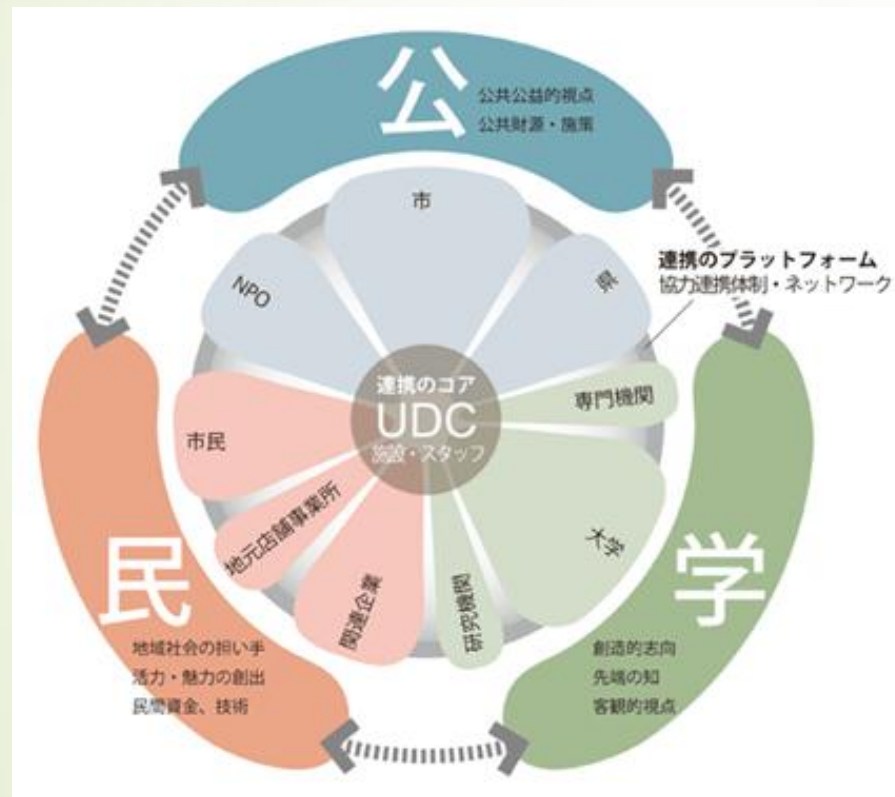
南草津のマクロな課題

課題解決のための調査研究

課題解決に向けての取り組み

草津版アーバンデザインセンターの必要性

アーバンデザインセンターとは？



- ▶ 複合化した地域の課題に対して、公・民・学のそれぞれの立場で活動する様々な個人や組織が、様々な場面で臨機応変につながり、協働して解決に取り組むコラボレーションを進めるためのプラットフォーム
- ▶ 「大学」や専門家は、新たな技術や理論を積極的に街に応用すると共に、長期的・客観的視点から見たコラボレーションの方向づけをする上で、重要な役割を担う。
- ▶ 公・民・学のマス・コラボレーションを地域主体で実践し、街を創造する拠点

(「柏の葉アーバンデザインセンターの概要と活動」より引用)

全国のUDC

- 現在、千葉県柏市の柏の葉アーバンデザインセンターをはじめ、全国に9か所のアーバンデザインセンターがあります。
(資料 別紙「連携型まちづくり拠点のかたちと方向性」参照)。
- それぞれのアーバンデザインセンターは「公・民・学」連携のプラットフォームという基本的構造は共有しているものの具体的な活動内容については地域の特性により異なります。
(資料 別紙「連携型まちづくり拠点のかたちと概要」参照)
- しかしながら、市民の気軽に寄れる知の活動拠点として、今までの無関心層の開拓もアーバンデザインセンターの重要なミッションのひとつであり、各UDCはそれぞれユニークなセミナーや講座等を開催しています。
- まちづくりの人材育成もUDCにとって重要なミッションのひとつであり、人材育成講座はすべてのUDCで実施されています。

松山アーバンデザインセンター視察

■ 視察の目的

草津市においてアーバンデザインセンター（UDC）を設置する場合の課題、及び解決策について調査するため。

■ 松山アーバンデザインセンター（UDCM）を視察先に選定した理由

- 最も新しいアーバンデザインセンターであり、
- 行政主導で設立されたアーバンデザインセンターであること

■ 視察日時： 平成27年8月5日

UDCM 6つの成功要因

1. 都市整備部都市デザイン課の所管 **専** **実**
 - ▶ UDCMは都市デザイン課の事業として位置づけられている。都市デザイン課は旧市街地開発などフィールドとなる現場、許認可権限、予算を持っており、UDCMにワークショップの開催や市民意識調査等を委託できる。
2. 中心となる教員の存在 **専** **実**
 - ▶ UDC設立を積極的に進める愛媛大学に教授として出向した国土交通省職員がいた。
3. 愛媛大学の積極的関与 **専** **実**
 - ▶ 新学部（社会共創学部）構想、寄付講座の利用など愛媛大学の積極的提案、及び関与があった。
4. 誰でもが気軽に立ち寄れる拠点の存在 **多** **実**
 - ▶ 商店街の脇道に広場を持つ拠点があり、子連れの親子や学生などが気軽に立ち寄り、活動できる。
5. 事業のスピード感 **実**
 - ▶ UDCMは愛媛大学の寄付講座として実施しているため、タイムリーな企画の実施が可能となった。
6. 社会実験として実施 **実**
 - ▶ スタート時点は期間限定（1. 5年）の社会実験として実施した。一定の成果が得られてため、社会実験終了後も継続が決定した。

草津版UDC設立 3つの課題への対応

多 様 性

- ▶ 誰でもが気軽に参加できる場所の確保
 - ▶ 人通りの多い目立つ場所
 - ▶ 子連れの親子でも気軽に立ち寄れる雰囲気
 - ▶ マイクロ・ライブラリー等知的な雰囲気の演出
 - ▶ 無線LAN等のネットワーク環境
- ▶ 魅力あるプログラムの開発

専 門 性

- ▶ **大学の積極的関与**
 - ▶ 中心となって活動する教職員が必要
- ▶ **行政、企業等の専門知識**

実 行 性

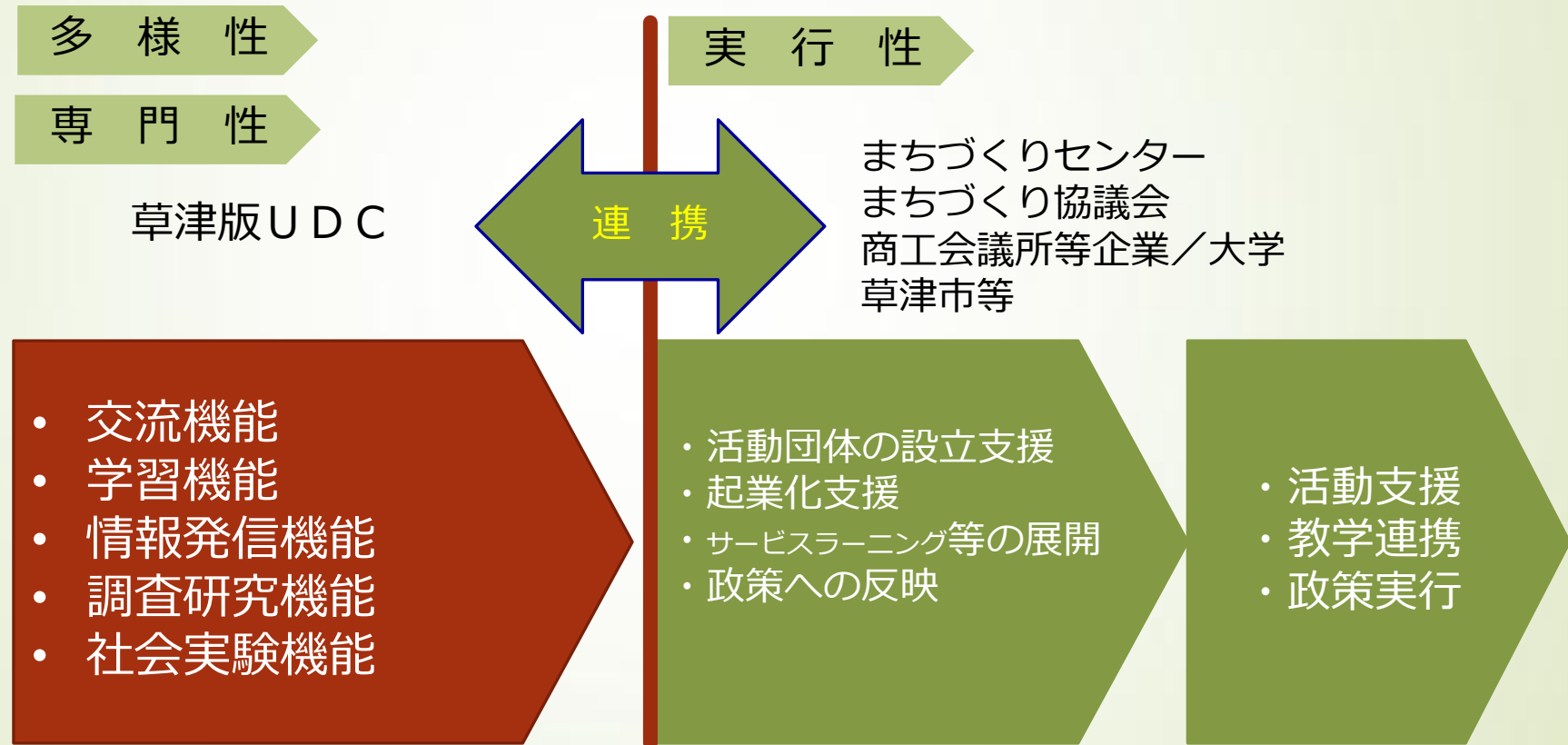
- ▶ **教学連携による学生の参加**
- ▶ **企業、商工会議所の参加・連携**
- ▶ **まちづくりセンター、まちづくり協議会の参加・連携**

草津版UDCにおける市の役割

- 場所の確保
 - 南草津駅前に拠点を整備
 - 誰でもが気軽に自由に立ち寄り、対話する魅力ある空間を演出するために必要な措置
- UDC運営の中心となる職員の確保
- 運営経費の負担

草津版UDCの活動概要（案）

- ▶ 当面は南草津エリア



今後の協議事項

	開催予定年月日	協議内容
第2回	平成27年 10月下旬～11月上旬	<ul style="list-style-type: none">草津版UDCの役割及び機能草津版UDCが取り組むプログラム（1）草津版UDCの拠点について<ul style="list-style-type: none">立地選定の条件拠点が持つ設備・サービス等
第3回	平成27年12月	<ul style="list-style-type: none">草津版UDCの構成団体構成団体の役割草津版UDCが取り組むプログラム（2）
(第4回)	平成28年2月	<ul style="list-style-type: none">正式発足に向けてのスケジュール及び手続

第2回大学地域連携強化プラン懇話会

草津版アーバンデザインセンター (UDC) の概要 (案) について

29

平成27年11月5日

草津市総合政策部草津未来研究所

全体の流れ

草津版アーバンデザインセンターの役割と機能

魅力ある実施プログラムの検討

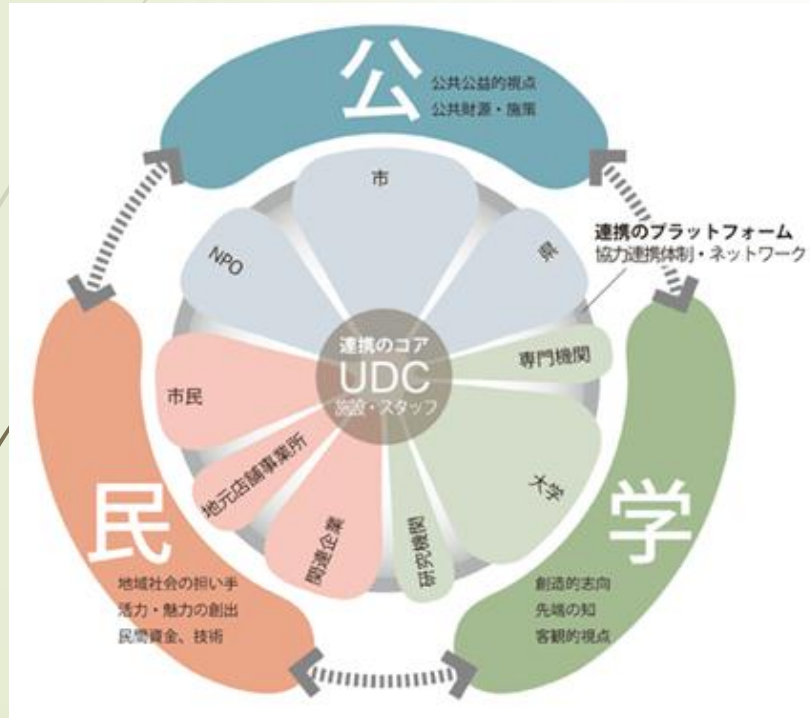
拠点整備の考え方

草津版UDCの運営体制等

アーバンデザインとは？

- ▶ 都市空間（アーバンスペース）は、多くの建築物、道路、樹木、街灯やベンチなどによって構成されています。また、市街地だけでなく、その周辺の田園や緑地も、都市空間を支える重要な構成要素です。
- ▶ その空間には歴史があり、複合化した地域の課題があり、人々の活動があり、そして、未来への可能性が広がっています。
- ▶ アーバンデザインでは、地域の歴史や現状を知り、地域の個々の課題を構造化し、地域の複合的な課題として捉えたうえで、未来のまちのイメージについてみんなで話し合い、共有します。そうして、未来を創造するための新たな活動を産みだし、人々のニーズにあった都市空間をデザインすることです。

アーバンデザインセンター（UDC）とは？



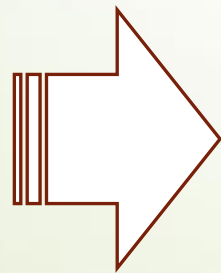
アーバンデザインセンターとは

- 複合化した地域の課題に対して、公・民・学のそれぞれの立場で活動する様々な個人や組織が、様々な場面で臨機応変につながり、協働して解決に取り組むコラボレーションを進めるためのプラットフォーム
- 「大学」や専門家は、新たな技術や理論を積極的にまちに応用すると共に、長期的・客観的視点から見たコラボレーションの方向づけをする上で、重要な役割を担う。
- 公・民・学のマス・コラボレーションを地域主体で実践し、まちを創造する拠点

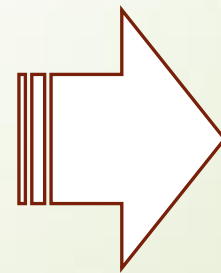
アーバンデザインセンターの目的

- ▶ 地域を知り、お互いを知ること
 - ▶ 過去の庶民の暮らしの工夫や知恵を再発見すること
 - ▶ 地域の現在の状況及び課題を可能な限り把握すること
 - ▶ 個別の課題群を構造化し、複合化した課題として認識すること
 - ▶ 活動を通じてお互いを知り合うこと
- ▶ 未来のまちのイメージを共有すること
 - ▶ 中長期的な視点を獲得すること
 - ▶ バックキャストिंगにより将来へのインパクトが大きい課題を明確にすること
 - ▶ ステークホルダー間の利害を調整すること
- ▶ 新たな活動を創出すること
 - ▶ 新たな活動の可能性を見出すこと
 - ▶ 未来のまちを創造する萌芽的活動を支援すること
 - ▶ 指標等を参照しながら、互いの活動の強度を調整すること

地域を知る
互いを知る



イメージの
共有



新たな活動
の創出

草津版アーバンデザインセンターの役割①

- アーバンデザインのイメージの共有
 - アーバンデザインを共有するためのプログラム開発

地域を知る
互いを知る

イメージの
共有

新たな活動
の創出

(学習・交流)
地域を知るためのワークショップ

- (調査研究)
- ・ 各種統計データ等の収集
 - ・ 市政等の説明、解説
 - ・ 市民意識調査
 - ・ 課題の抽出・構造化

(学習・交流)

- ・ 未来のまちを考えるワークショップ
- ・ ワールド・カフェ
- ・ シナリオ・ワークショップ
- ・ コンセンサス会議 等

(調査研究)

- ・ 合意形成プロセスの研究など

(社会実験)

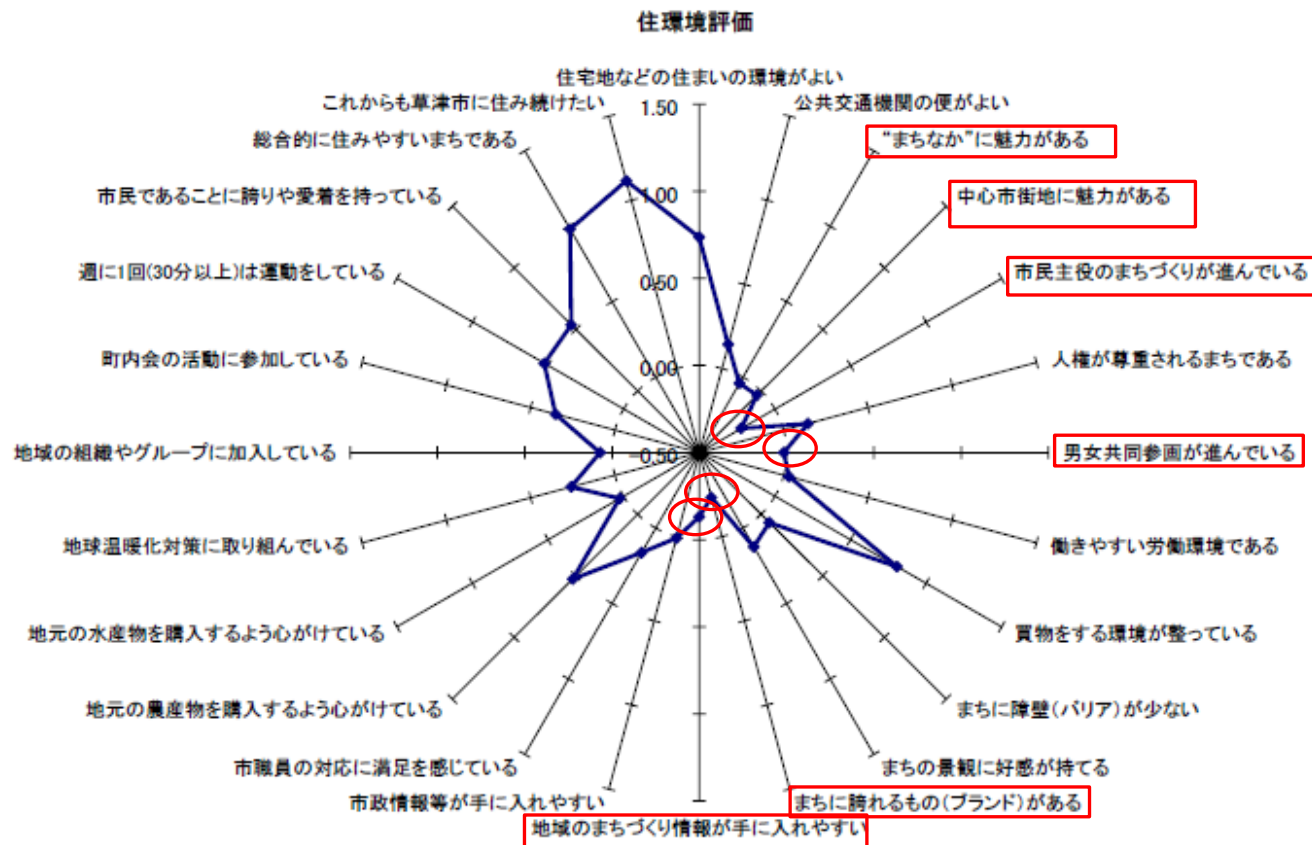
- ・ ワorkshop等の提案を実施

(調査研究)

- ・ 市民活動に関する調査研究など

(参考) H26年度市民意識調査結果

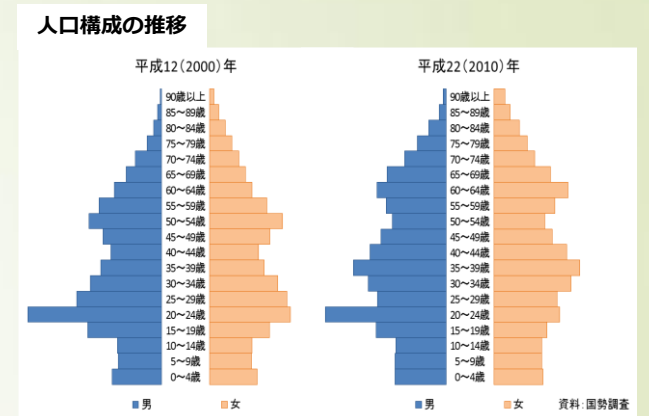
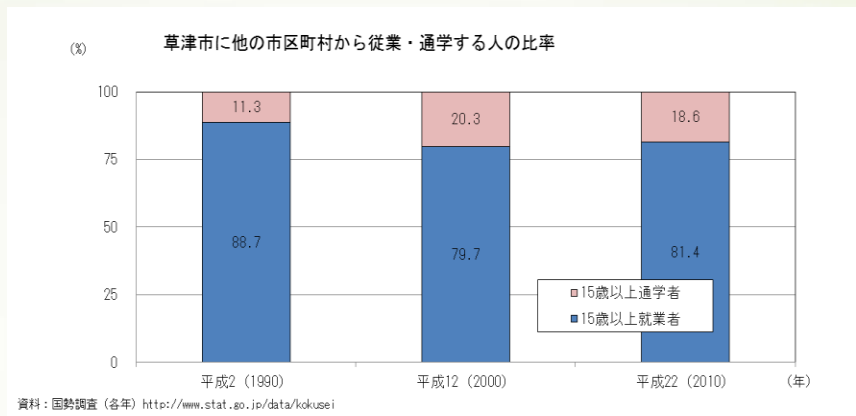
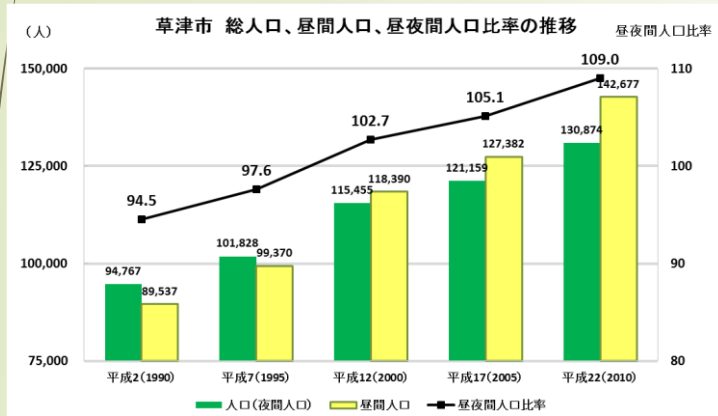
住環境評価 (加重平均)



- 住環境評価では、「まちに誇れるもの(ブランド)がある」「市民主役のまちづくりが進んでいる」「地域のまちづくり情報が手に入れやすい」「まちなか」の魅力がある」「中心市街地に魅力がある」「男女共同参画が進んでいる」の6つがマイナスである。

- 特に「まちに誇れるもの(ブランド)がある」「市民主役のまちづくりが進んでいる」「地域のまちづくり情報が手に入れやすい」が低くなっている。

(参考) 草津市の人口動態・構成



草津市への流入



- 昼夜間人口比率が1.09であり、昼間の方が人口が多い。
- 流入人口は約45,000人であり、約8割は就業者である。
- 流入人口は約7割が県内市他市であり、隣接の大津市、守山市、栗東市のみで約5割を占める。
- 昼間人口の1割が学生であり、学生は県外が多い。
- 草津市に住みたくなる魅力ある活動の場を提供すること
- 通学者が卒業後も住み続けたいと思う活動の場、または関西圏に戻ってきたときに再び草津を選択していただける思い出を作る場の提供

草津版アーバンデザインセンターの役割②

- アーバンデザインのイメージの共有
 - アーバンデザインを共有するためのプログラム開発
- 連携・交流の場の提供
 - 就業・通学者、単身赴任者、下宿生等と居住者との交流の機会創出
- 萌芽的活動の支援
 - 萌芽的活動を支援（社会実験）し、既存支援活動体に切れ目なく接続
- 情報発信
 - 地域のまちづくりに関連する情報の発信
- 女性の参画
 - 政策決定プロセスへの女性の意見、及び参画

草津版UDCの機能（案）

	UDCK 柏の葉アーバンデザイン センター	UDCM 松山アーバンデザイン センター	UDCIC アイランドシティ・ アーバンデザインセンター	草津版（案）
所管課	柏市企画部 企画調整課	松山市都市整備部 都市デザイン課	福岡市港湾局 アイランドシティ経営計画部 事業管理課	草津市総合政策部 草津未来研究所
学習・交流	学習・研究・ 提案	交流・学習・ 教育・情報発信	連携・交流の場の創出	連携・交流の場の創出
調査研究		研究・提案	まちのデザインの 研究・提案	アーバンデザインの 調査研究
社会実験	実証実験・ 事業創出	実証実験・ 事業創出	大学や企業による実証 実験・研究	萌芽的活動の支援
情報発信	（言及せず）	（交流・学習・ 教育・情報発信）	情報発信 プロモーション	情報発信
デザイン マネジメント	デザイン マネジメント	デザイン マネジメント	（福岡市港湾局）	まちのイメージの共有
エリア マネジメント	エリア マネジメント	（既存まちづくり団 体）	まちづくり活動の 企画・実施	（既存支援活動体に 切れ目なく接続）

全体の流れ

草津版アーバンデザインセンターの役割と機能

魅力あるプログラムの検討

拠点整備の考え方

草津版UDCの運営体制等

他UDCの機能別活動事例①

	UDCK (柏の葉アーバンデザインセンター)	UDCM (松山アーバンデザインセンター)	UDCIC (アイランドシティ・アーバンデザインセンター)
学習・交流	<ul style="list-style-type: none"> まちづくりスクール 千葉大学 柏の葉カレッジ・プログラム まちの交流会 Kサロン その他エリア内のイベント参加 	<ul style="list-style-type: none"> アーバンデザインスクール アーバンデザイン研究会 	<ul style="list-style-type: none"> まちの学校 その他エリア内のイベント、セミナーの企画立案・実施
調査研究	<ul style="list-style-type: none"> 都市環境デザインスタジオ 	<ul style="list-style-type: none"> 専門スタッフの自主研究 地元シンクタンクとの共同調査研究 	<ul style="list-style-type: none"> エリア内のまちのデザイン調査研究・提案、およびまちづくりプラン等の策定・調査研究
社会実験	<ul style="list-style-type: none"> 大学、企業主体（実証実験というよりプロモーションに近い） 	<ul style="list-style-type: none"> 「みんなのひろば」 市民、学生の発案を具体化 	<ul style="list-style-type: none"> 行政主体
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ホームページ、twitter,FaceBook等SNS利用、フライヤー、冊子等発行 拠点施設自体が街中の目立つところにあり、全面ガラス張りで見内部の活動が見えるようになっている。また地域の情報ステーション的な役割を担っている。 		
		<ul style="list-style-type: none"> 地元FM愛媛と協力で毎週水曜日にUDCMの取り組み紹介の番組放送 	

他のUDCの機能別活動事例②

	UDCK	UDCM	UDCIC
デザイン マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ニュータウンであり、開発者がUDCの構成団体として参加 	<ul style="list-style-type: none"> 既成市街地での公や民による事業に対して助言、指導 	(福岡市港湾局が実施)
エリア マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ニュータウンであり、既存の自治会やまちづくり団体が存在せず、UDC自体が主体 	(旧市街地のため、まちづくり関係団体が存在)	<ul style="list-style-type: none"> ニュータウンであり、既存の自治会やまちづくり団体が存在せず、UDC自体が主体。

・デザインマネジメント

景観形成の方向性を共有し、地域の特性に応じたまち並みルールづくりや、デザインの誘導をマネジメントする。

・エリアマネジメント

様々なプログラムを通じてまちに参画する機会や仕組みを仕掛け、地域の持続的な活動を支援する。

また、様々なプログラムを企画・連携させ、地域が主体となって地域の価値を創造・維持・発展させる、自律するマネジメントを行う。

学習・交流・調査研究の事例 (UDCKの場合) ①

(学習・交流)

- ▶ まちづくりスクール
 - ▶ UDCK主催
 - ▶ まちづくりの担い手育成プログラム
 - ▶ 前期・後期 2回開講 全5回の連続講座 メンバー固定 有料(3000円)

- ▶ 千葉大学 柏の葉カレッジリング・プログラム
 - ▶ 千葉大学が提供するプログラム
 - ▶ 「健康」「農」「食」の3コース
 - ▶ 前期・後期 2回開講 6回/コース

学習・交流・調査研究の事例 (UDCKの場合) ②

- ▶ まちの交流会 Kサロン
 - ▶ UDCK主催
 - ▶ ゲストスピーカーを招き、交流
 - ▶ 月1回 予約不要 有料(3000円) 差し入れ持込み自由 予約不要
- ▶ その他エリア内各種イベントの主催、共催、参加等

(調査研究)

- ▶ 都市環境デザインスタジオ
 - ▶ 東京大学・千葉大学・東京理科大学・筑波大学の4大学共同
 - ▶ 各大学の大学院の授業をUDCKで開講
 - ▶ 行政や企業・市民とのオープンな議論を行うため、授業は公開

学習・交流・調査研究の事例 (UDCMの場合)

(学習・交流)

- アーバンデザインスクール
 - UDCM主催
 - まちづくりの担い手育成、及びまちのファンづくり
 - 全20回連続講座(1年) メンバー固定 無料
 - 運営: 愛媛大学・松山大学・聖カタリナ大学・松山東雲女子大学の協同運営
 - 講師: 大学教員、商店主、NPO、まちづくり組織、企業家など、実際にそれぞれの分野でご活躍をされている方
- アーバンデザイン研究会
 - アーバンデザインの手法を学ぶ
 - 開催不定期 都度参加者募集
 - プログラム
 - ①ゲストの講演、②学識経験者とのトークセッション、③研究者による研究発表、④意見交換

(調査研究)

- 専門職員、及び構成団体等による共同調査研究

学習・交流・調査研究の事例 (UDCICの場合)

(学習・交流)

- ▶ まちの学校
 - ▶ UDCIC主催
 - ▶ まちづくりの担い手育成プログラム
 - ▶ メンバー登録制 ただし、イベントは先着申込制
 - ▶ 1回/二か月の頻度でイベント、セミナー実施
- ▶ その他エリア内での各種イベント実施

(調査研究)

- ▶ まちのデザインの調査研究・提案
- ▶ まちづくり活動の調査研究

草津版UDCの実施プログラム（案） 1/2

	地域を知る	イメージを共有する	活動を産む
学習・交流	<ul style="list-style-type: none"> ・交流会 ・市政等説明会 ・地域探検ツアー ・個人史会 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ ・未来のジオラマづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・アーバンデザインスクール ・アーバンデザイン研究会
	大学、企業、市民による各種セミナー、イベントの実施		
調査研究	<ul style="list-style-type: none"> ・アーバンデザインに関する調査研究 (例) ・人口動態を反映した未来のシミュレーション ・ワンルームマンションの空き部屋活用策の検討 ・市民を対象としたアーバンデザインに関するアンケート調査・グループインタビュー 		
社会実験	<p>「アーバンデザイン」、「食と農」、「健康」、「子育て」の4テーマについて、市民、企業（新製品やサービス等の市場調査）、大学等の提案に対して、助成、及び支援を行う。</p>		
	市民、企業、大学提案による社会実験		

草津版UDCの実施プログラム（案） 2/2

	地域を知る	イメージを共有する	活動を産む
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページ、twitter,FaceBook等SNS利用、フライヤー、冊子等発行 （・ 拠点施設自体が街中の目立つところであり、ガラス張りで内部の活動が見える。また地域の情報ステーション的な役割を担う） 		
デザイン マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 景観形成の方向性を共有し、都市計画部と連携して地域の特性に応じたまち並みルールづくりや、デザインの誘導を行う。 		
エリア マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「学習・交流」「社会実験」等を通じ、様々なプログラムを通じてまちに参画する機会や仕組みを仕掛け、持続的な活動になった時点で、まちづくり協働部、まちづくり協議会、商工会議所等と連携して切れ目なく繋がるプラットフォーム機能を提供する。 		

全体の流れ

草津版アーバンデザインセンターの役割と機能

魅力あるプログラムの検討

拠点整備の考え方

草津版UDCの運営体制等

拠点事例

	UDCK	UDCM	UDCIC
所有	東京大学フューチャーセンター施設利用 (無償で賃貸)	空き店舗改修・賃貸(期間限定)	福岡市港湾局より無償貸与 (民間ビルを市が賃貸)
立地	柏の葉キャンパス駅西口駅前	松山市駅から徒歩8分 松山を代表する商店街近く	ニュータウン玄関 バス停前
建物概要	東京大学フューチャーセンター1階部分 (公開空地隣接)	1階及び2階(広場前)	福岡ビジネス創造センター 1階ギャラリー部分(公園前)
面積	部屋面積 150m ² 事務スペース等 70m ² ホールスペース 85m ² トイレは館内施設利用	1階 交流スペース100m ² 2階 事務スペース80m ² 多目的トイレ含まず	ミーティングスペース 約50m ² まちの本棚 約60m ² 情報コーナー 約40 事務局 約20m ²
開館時間	開館日時：月曜～土曜 10:00～19:00 休館日：日曜・祝日・年末年始	開館日時：月曜～金曜 10:00～20:00 土曜・日曜・祝日 10:00～18:00 休館日：年末年始	開館日時：月曜～金曜 10:00～17:00 休館日：土日曜・祝日・年末年始
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・3代目施設 ・周辺に関連施設多数あり ・施設内は飲食自由 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の前に「みんなのひろば」あり ・施設内は飲食自由 	<ul style="list-style-type: none"> ・まちの本棚に図書約2,000冊 ・情報コーナーに模型(3m×2m)、資料 ・施設内にホールあり、ホールとUDCICは可動壁で仕切られているため、2室繋げて大きく使用することが可能。 ・目の前は公園 ・施設内は飲食自由

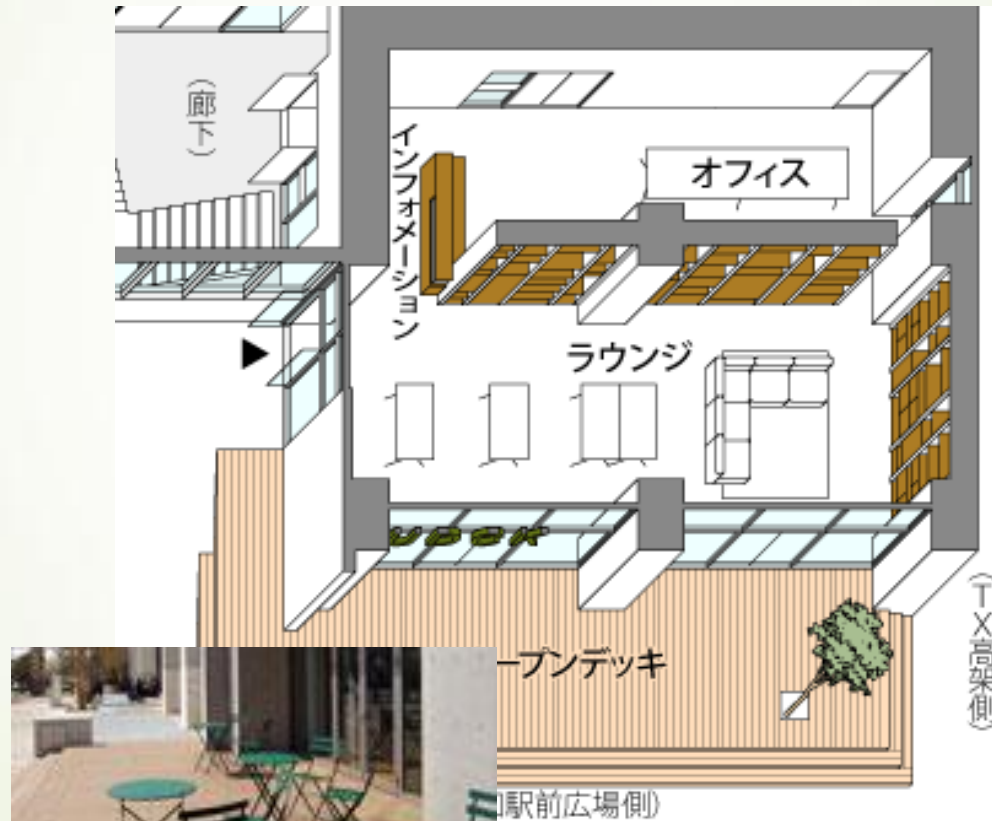
拠点事例 (UDCK) 外観



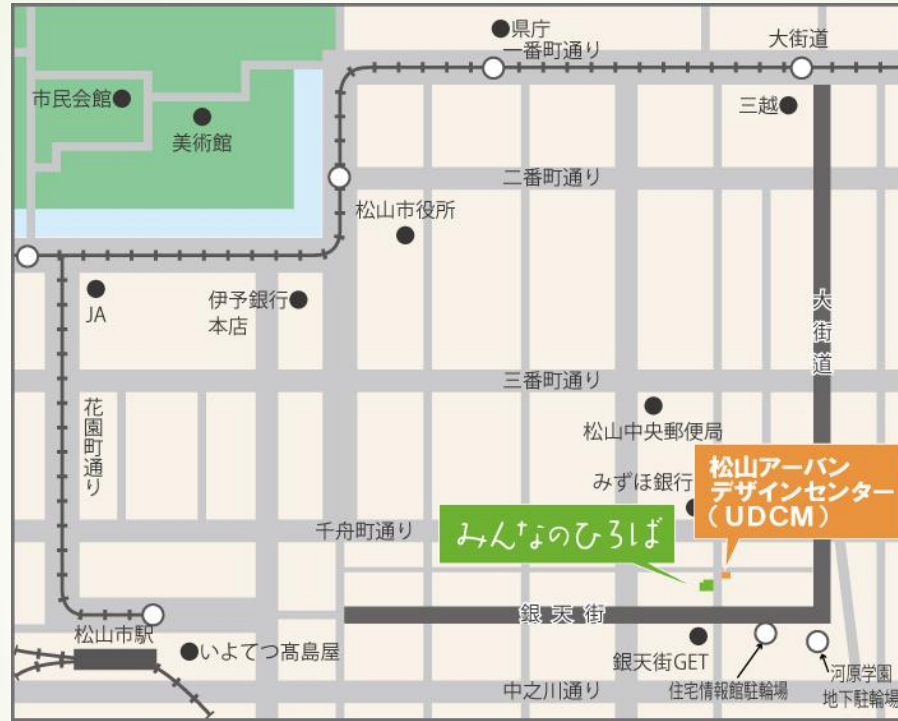
<http://www.udck.jp/>



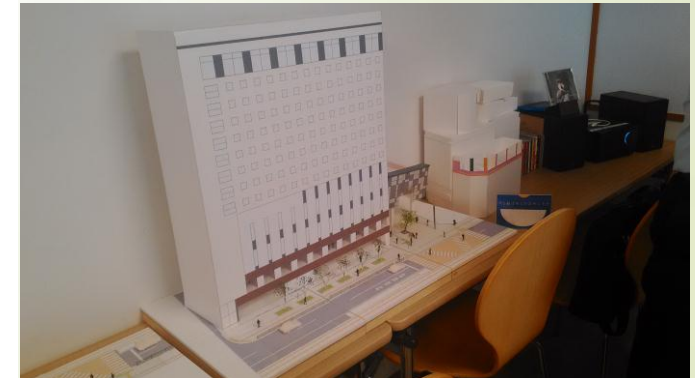
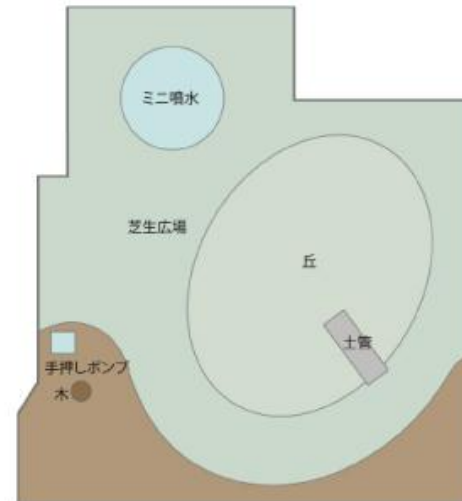
拠点事例 (UDCK) 内観



拠点事例 (UDCM) 外観



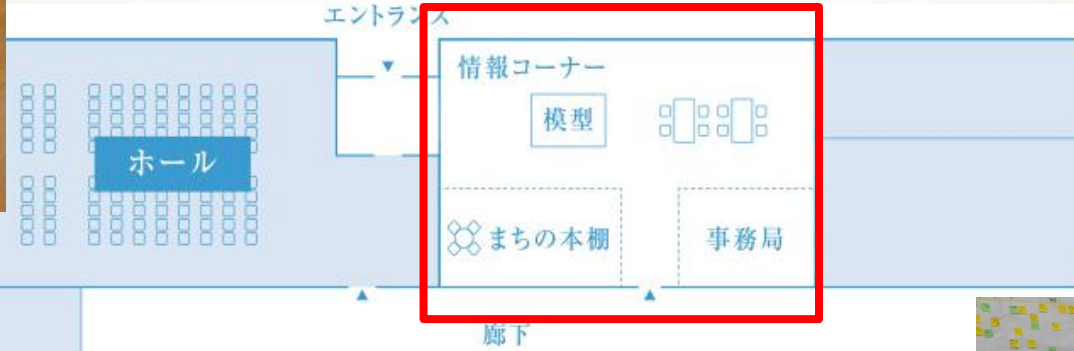
拠点事例 (UDCM) 内観



拠点事例 (UDCIC) 外観



拠点事例 (UDCIC) 内観



既存拠点施設の特長

外観 (周辺環境)

- 駅前や商店街の近く、ニュータウンのランドマークビル内などその地域では人通りの多い道路に面したビルの1階にある。
- 公園や広場などの近くにある。
- 建物は全面ガラス張りで、外から内部が見えるようになっている。
- UDCのロゴが目立つところにあり、遠くからでもわかる (K,CI)

内観 (設備等)

- 多目的ホールとして設計されている。
- 机や椅子は自由に移動できるようになっている。
- ホワイトボードやプロジェクターなどが常備されている。
- 自らポトラッチ（飲食物を持ち寄って交流）を主催するなど飲食の持ち込みが自由である。
- マイクロライブラリー（まちの小さな図書館）が併設されている。(K,CI)
- まちの情報ステーション的な機能も兼ねている
- ソファ等くつろぎのスペースがある (K)
- 広場が目の前にあるため、多目的トイレ設置 (M)

その他

- UDC Kは三代目の建屋、UDC Mは移転が予定されているなど状況に合わせて柔軟に対応している。

拠点を検討する上での条件①

外観 (周辺環境)

- 南草津駅前の人通りの多い道路に面したビルの1階が望ましい
(地図の枠内)
- 公園や広場などの近くが望ましい
- 建物はガラス張りで、外から内部が見える

内観 (設備等)

- 多目的ホールとして設計する
- 机や椅子は自由に移動できる
- ホワイトボードやプロジェクターなどが常備する
- 飲食の持ち込みを可とする(小さなカフェ機能)
- まちの情報ステーション的な機能も兼ねる
- 子育て世帯が多い地域のため、プレイルーム的な機能を持たせる
- バス待ちなど学生や社会人の待機場所としても活用する
- 無線WiFi、PC及びスマホ用電源を整備する

拠点を検討する上での条件②



(堀江尚子委員、一ノ瀬明希子さん写真提供)

全体の流れ

草津版アーバンデザインセンターの役割と機能

魅力あるプログラムの検討

拠点整備の考え方

草津版UDCの運営体制等

草津版UDCの運営体制（案）

（監理運営組織）

会長
副会長

委員

計
15名

構成団体

- まちづくり協議会連合会（1名）
- 草津商工会議所（1名）
- 草津市コミュニティ事業団（1名）
- パナソニック アプライアンス社（1名）
- 滋賀銀行（1名）

民

- 立命館大学（2名）
- 京都橘大学（1名）
- 滋賀大学（1名）
- 成安造形大学（1名）

学

- 草津市（5名）

公

（執行組織） = 連携のコア

センター長

各プログラムを統括し、全体のアーバンデザインについて指示調整等を行う

副センター長

プロジェクトアドバイザー

プログラムごとに専門的観点から指導・助言を行う。

シニアディレクター

建築、公共空間、アート、祭り、スポーツ、産業技術等、各担当における企画・調整・連携を図りながら、事業執行を担う。

ディレクター

各プログラム（セミナー、ワークショップ、社会実験等）

今後の予定

	開催予定年月日	協議内容
第3回	平成28年1月	<ul style="list-style-type: none">• 草津版UDCの組織体制• 草津版UDCが取り組むプログラム（2）• スケジュール
(第4回)	—	—